



NATURAL SOUND STEREO CASSETTE DECK

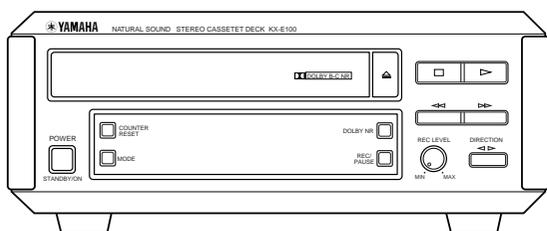
KX-E100



取扱説明書

もくじ

ページ



このたびは、ヤマハ カセットデッキ KX-E100 をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

KX-E100 の優れた性能を充分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくためにも、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管してください。

ご使用前に必ずお読みください

保証書の手続きを

お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行ってください。保証書に販売店名、購入日などの記入がありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくことがありますので、充分ご注意ください。

安全上のご注意	2
おもな特長	6
接続のしかた	7
各部の名称	8

テープを聞くには	9
再生の基本操作	9
テープを早く巻き取るには	12
曲の頭出しをするには	12
録音するには	13
録音の基本操作	13

テープについて	16
お手入れするには	17
リモコンについて	18
音楽著作権について	19
故障かな?と思ったら	20
仕様	21
ヤマハホットライン	
サービスネットワーク	22

はじめに

操作のしかた

「」参考

安全上のご注意 (安全に正しくお使いいただくために)

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。この「安全上のご注意」に書かれている内容には、お客様が購入された製品に含まれないものも記載されています。

絵表示の例



記号は注意(危険・警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。



分解禁止

⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。



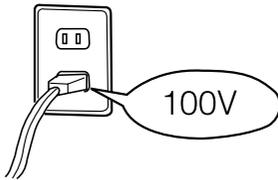
記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。



警告

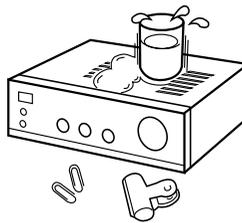
この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

- ⊘ 電源電圧交流100V以外の電圧で使用しない



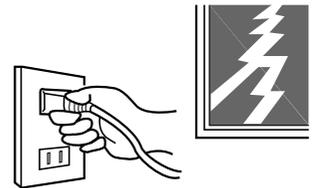
火災・感電の原因となります。本機を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。

- ⊘ 水を入れたり、ぬらさない



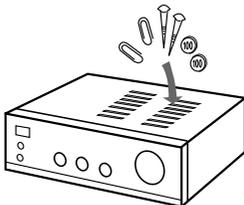
火災・感電の原因となります。本機の上に水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。

- ⊘ 雷が鳴っているときは、アンテナ線や電源プラグに触れない



感電の原因となります。

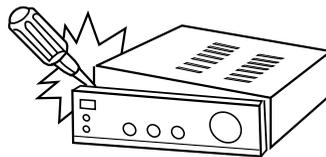
- ⊘ 通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものを差し込んだり、落とし込んだりしない



火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

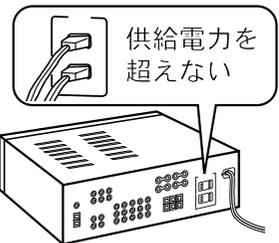
- ⊘ 分解・改造を絶対しない (キャビネットをはずすことも含む)

分解禁止



火災・感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。

- ⊘ 供給電力を超える消費電力の機器を、電源供給コンセントに接続しない



火災の原因となります。接続機器の消費電力の合計が本機背面に表示されている供給電力を超えないようにしてください。また、供給電力内であっても電源を入れたときに大電流の流れる機器(電熱器具、ヘアドライヤー、電子レンジなど)は接続しないでください。

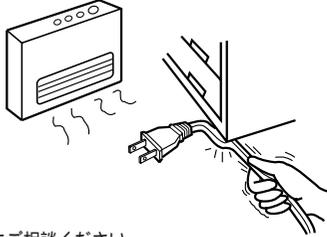


警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

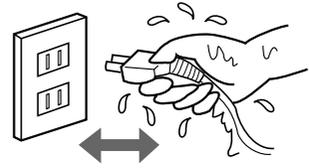
⊘ 電源コード・プラグを破損するようなことをしない

(傷つける、加工する、熱器具に近づける、無理に曲げる・ねじる、引っばる、束ねる、重いものをのせるなどしない)



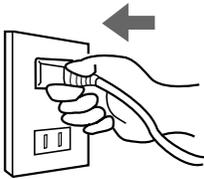
火災・感電の原因となります。
コードやプラグの修理は販売店にご相談ください。

⊘ 濡れた手で電源プラグの抜き差しをしない



感電の原因となります。

⚠ 電源プラグは根元まで確実に差し込む



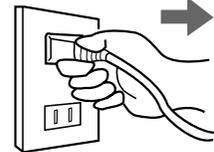
差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。
抜くときは必ずプラグを持ち、コードを引っばらないでください。
傷んだプラグ、ゆるんだコンセントは使わないでください。

⚠ 電源プラグのほこりなどは定期的にとる



プラグにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因となります。
電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。

⚠ 機器の内部に水や異物が入った場合は、まず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く



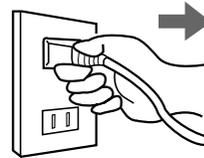
販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

⚠ 煙が出たり変なにおいや音がしたら、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグを抜く また、電源プラグの抜き差しがしやすいコンセントに接続する



そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

⚠ 落としたりして本機を損傷した場合は、電源スイッチを切り、電源プラグを抜く

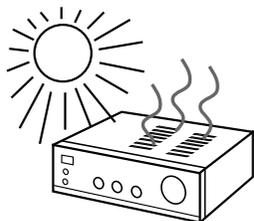


そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

⚠ 注意

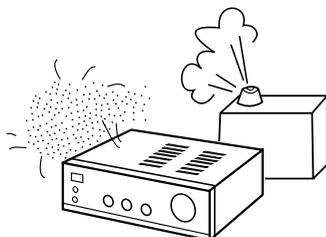
この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

- ⊘ 直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に置かない



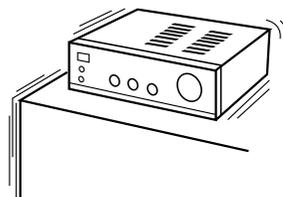
キャビネットや部品に悪い影響を与えたり、内部の温度が上昇し、火災の原因となります。

- ⊘ 湿気やほこりの多い場所に置かない



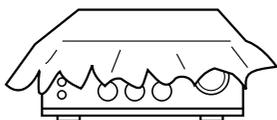
火災・感電の原因となります。

- ⊘ 振動のある場所、ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない



落ちたり、倒れたりしてけがの原因となります。

- ⊘ 通風孔をふさがない



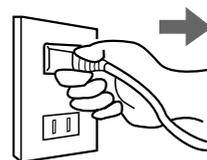
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となりますので、次の点に注意してください。
テーブルクロスを掛けたり、じゅうたんや、布団の上に置かないでください。
本機を押し入れ、本箱など風通しの悪い狭い所に押し込まないでください。

- ⚠ 放熱をよくするために他の機器との間は少し離して置く



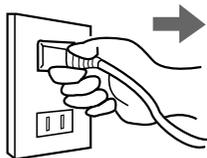
火災・故障の原因となります。ラックなどに入れるときは、本機の天面から10cm以上、背面から10cm以上のすきまを開けてください。

- ⚙ 各機器を接続する場合は電源プラグを抜き、説明に従って接続する



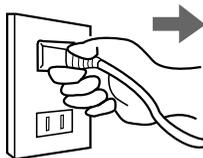
各々の機器の取扱説明書をよく読み、接続には指定のコードを使用してください。

- ⚙ 移動するときは電源スイッチを切り、必ず電源プラグを抜き、外部の接続コードを外す



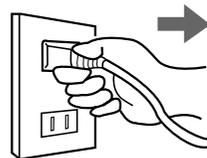
コードが傷つくと火災・感電の原因となります。

- ⚙ お手入れの際は、安全のため電源プラグを抜く



感電の原因となります。

- ⚙ 長期間使わないときは、必ず電源プラグを抜く



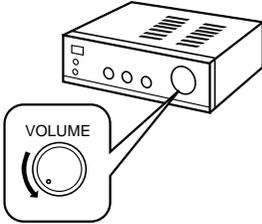
火災の原因となることがあります。



注意

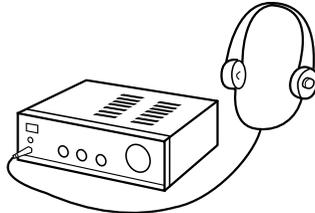
この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

⚠ 電源を入れる前には音量を最小にする



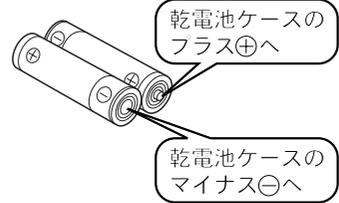
突然大きな音が出て聴力障害などの原因となります。

⊘ ヘッドホンを使うときは、音量を上げすぎない



大きな音で聞くと、聴力障害などの原因となります。

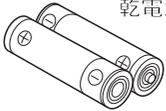
⚠ 付属のリモコンに電池を挿入する場合、極性表示(プラス⊕とマイナス⊖)通りに入れる



間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

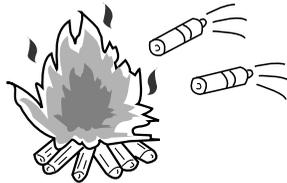
⊘ 指定以外の乾電池は使用しない

取扱説明書に記載されている乾電池を使用する



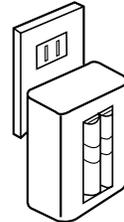
また、種類の違う乾電池、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となります。

⊘ 乾電池はショート、分解、加熱、火に入れるなどしない



発熱、液もれ、破裂などを起こし、けが、やけどの原因になります。

⊘ 乾電池は充電しない



液もれ、破損などを起こし、けが、やけどの原因になります。

⚠ アンテナ工事には、技術と経験が必要です。販売店にご相談ください。

⚠ 1年に一度くらいは内部の掃除を販売店にご相談ください。

本機の内部にはほりかたまま長い間掃除しないと、火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店にご相談ください。

おもな特長

ドルビーB、C NRの搭載によるヒスノイズの少ない再生・録音

両面連続再生ができるリバースメカニズム

テープの種類(ノーマル/ハイ/メタル)を自動的に判断するオートテープセクター

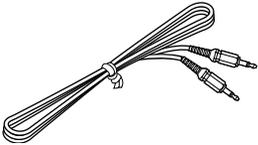
前後1曲頭出し

ヤマハレシーバRX-E100、CDプレーヤーCDX-E100、MDレコーダMDX-100とシステム接続することにより、シンクロ録音など便利な機能を手軽にお使いいただけます。

はじめに、次のことをお確かめください。

- 1 保証書にお買い上げ店名を記入してもらいましたか。
- 2 付属品はすべてそろっていますか。

付属品

<p>オーディオ接続コード×2 (長さ:1.0m)</p> 	<p>コントロールコード×1 (長さ:1.0m)</p> 	<p>取扱説明書×1 保証書×1</p>
---	--	--------------------------

音楽のエチケット



楽しい音楽も場所によっては気になるものです。ご近所のご迷惑にならないよう、十分気を付けましょう。

夜間にお使いになるときは、ご近所のご迷惑にならないよう、音量を小さくするか、ヘッドホンでお楽しみください。

ヘッドホンをご使用になるときは、耳をあまり刺激しないよう、音量を小さくしてお楽しみください。

接続のしかた

接続のまえに各機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。

別売のヤマハレシーバRX-E100、CDX-E100、MDX-E100とのシステム接続

本機とレシーバの[A]と[B]のマークがついた端子どうしを付属のオーディオ接続コードでつなぎます。(右チャンネル⑤、左チャンネル④を必ず確認してください。)

本機とCDプレーヤ、またはMDレコーダのシステム接続端子をコントロールコードでつなぎます。接続が完了したら、電源コードをCDプレーヤまたはMDレコーダ背面の電源コンセントに差し込みます。

お手持ちのアンプなどとの接続

本機とアンプなどのテープ入出力端子を付属のオーディオ接続コードでつなぎます。(右チャンネル⑤、左チャンネル④を必ず確認してください。)

接続が完了したら、電源コードを家庭用電源コンセントまたはアンプなどの背面の電源コンセントに差し込みます。

接続するアンプによっては端子名などが異なります。接続するアンプの取扱説明書も参照してください。

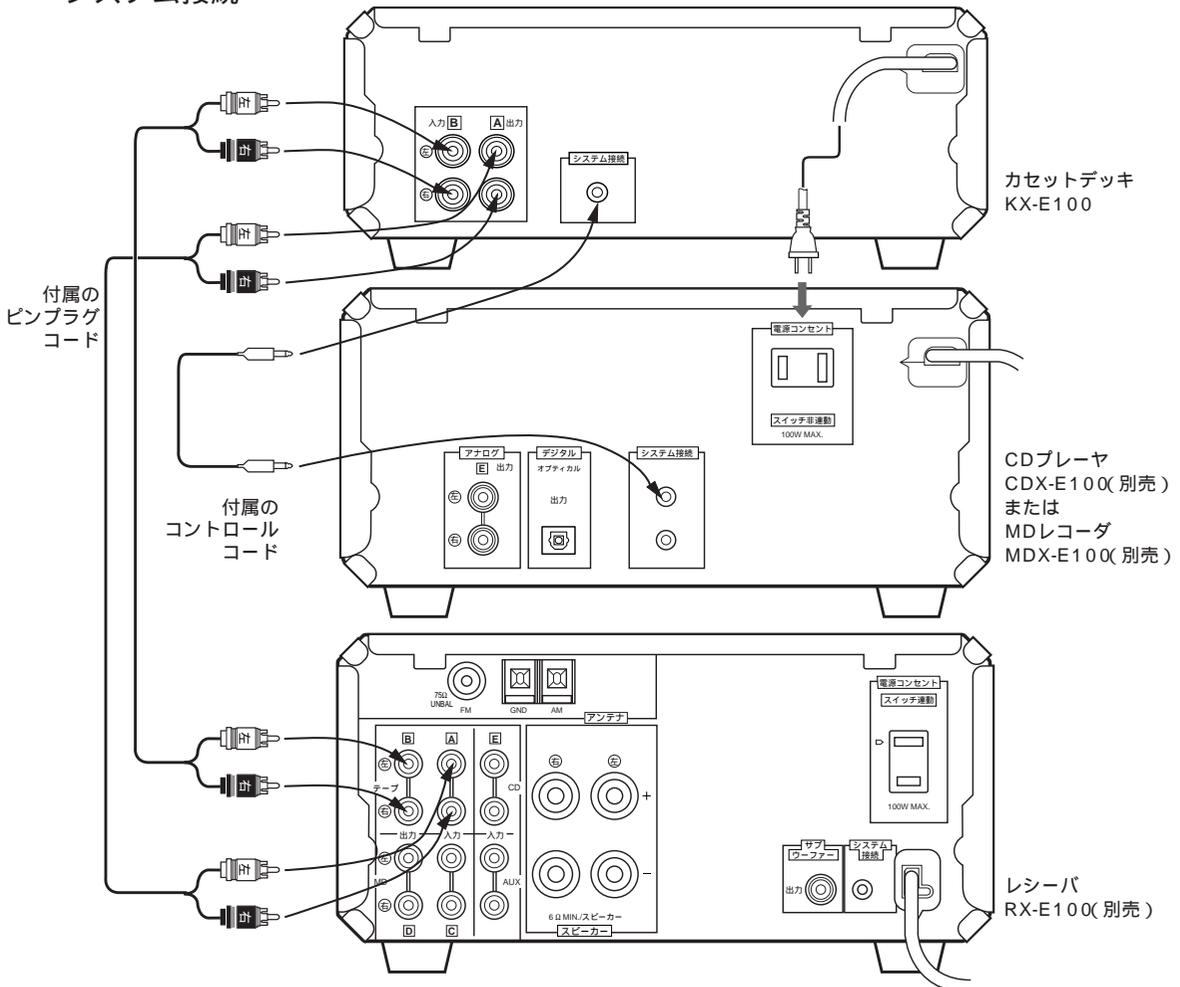
本機の電源コードには電源トランスの巻始めが極性表示(白線または文字入り)されています。プラグを差し替えて音質が変わるようでしたら、お好みの極性でお使いください。

下図では、接続コードのプラグの色を次のように示します。



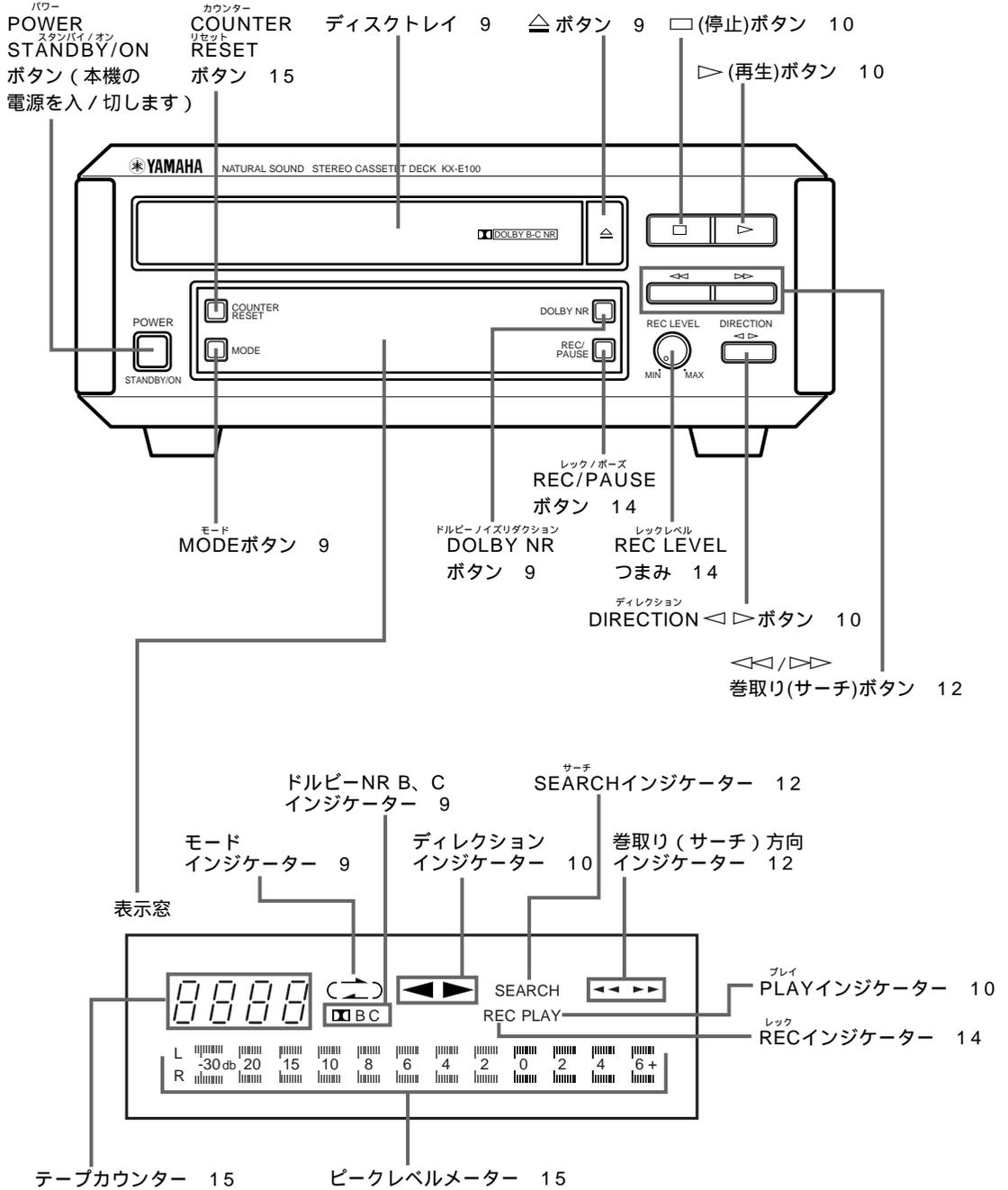
接続のしかた

システム接続



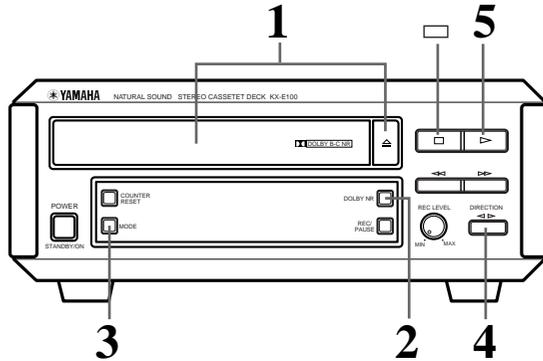
各部の名称

番号は本文で説明しているおもなページです。



テープを聞くには

再生の基本操作

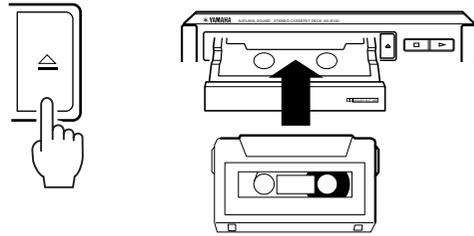


RX-E100/CDX-E100とシステム接続している場合は、RX-E100/CDX-E100 (CRX-E100)に付属のリモコンで本機を操作できます。18ページをご覧ください。

1 テープを入れる

△ボタンを押し、トレイにテープをのせてから、△ボタンを押します。

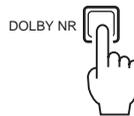
テープがじかに出ている面を奥にして入れてください。デッキのPOWERスイッチを切っている場合でも、△ボタンを押すと自動的に電源が入ります。



2 ドルビーノイズリダクション DOLBY NRボタンでドルビーNRを選ぶ

DOLBY NRボタンを押すたびに、ドルビーB、C、オフの順で切り換わります。

ドルビー NRについては、11ページを参照してください。



ドルビー-B NR オン (<input type="checkbox"/> B点灯)	ドルビー-B NR録音されているテープ
ドルビー-C NR オン (<input type="checkbox"/> C点灯)	ドルビー-C NR録音されているテープ
ドルビー NR オフ (インジケーター消灯)	ドルビー-NR録音されていないテープ

3 モード MODEボタンでテープの走行モードを選ぶ

MODEボタンを押すたびに、テープの走行モードが切り換わります。

→)モードで裏の面から再生すると、その面のテープエンドで止まります。



モードインジケーター

-) 片面だけを再生するとき
- ↔) 表の面から裏の面を1回だけ再生するとき
- ↺) 両面を繰り返して再生するとき

テープを聞くには

4 DIRECTION ◀ ▶ ボタンで聞きたい面を選ぶ

DIRECTION ◀ ▶ ボタンを押すたびに ▶ と ◀ が切り換わります。



ディレクションインジケーター

▶点灯	表の面を再生するとき
◀点灯	裏の面を再生するとき

5 ▶ ボタンを押す

PLAYインジケーターが点灯し、テープの再生が始まります。



メモ

手順1でディスクトレイを閉めるとき、△ボタンを押さずに▶ボタンを押すとディスクトレイが閉まり、自動的に再生が始まります。

音量を調節するには

接続したレシーバ(アンプ)でおこないます。

テープを止めるには

□(停止)ボタンを押します。

テープを取り出すには

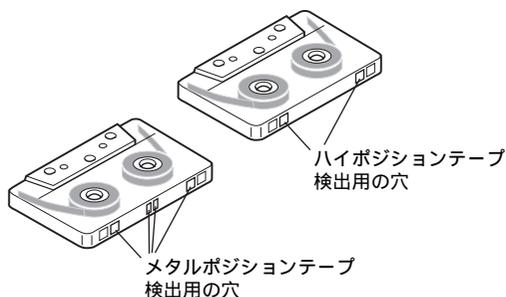
△ボタンを押します。
テープを取り出したら、△ボタンをもう一度押してテープトレイを閉めます。

再生中やテープの取り巻き中に△ボタンを押すとテープが停止し、テープトレイが開きます。

スタンバイ(STANDBY)モードについて
電源コードが接続されていて、POWERスイッチが切られている状態をスタンバイモードといいます。

この状態で△または▶ボタンを押すと自動的に電源が入ります。△ボタンを押したときは、ディスクトレイが開き、テープがデッキに入っている状態で▶ボタンを押したときは、再生が始まります(ダイレクトプレイ)。

オートテープセレクト機能について
カセットテープはテープの材質によって特性が異なるので、それぞれの材質に最適なバイアス値とイコライザー特性を選択する必要があります。本機はオートテープセレクト機能を内蔵していますので、カセットテープを装着するだけでそのテープに最適なバイアス値とイコライザー特性、テープ感度に自動的に切り換わり、それぞれのテープの性能を発揮させることができます。テープの種類を検出には検出用の穴を利用しています。



カセットハーフに検出用の穴がないテープ（旧タイプのメタルポジションテープなど）ではオートテープセレクトが働きません。このようなテープを使用すると、ハイポジションで録音/再生されます。テープによっては録音しても前の音が残ったり、音がひずむことがあります。

ドルビーNRについて

カセットテープを再生すると、“サーッ”というテープヒスノイズが聞こえます。耳障りなこのテープヒスノイズを減らすため、本機ではDOLBY NRシステムのBおよびCタイプを採用しています。

ドルビーB NRでは高域周波数において約1/3（10 dB）の改善効果が得られます。

ドルビーC NRでは、人間の耳がもっとも敏感な帯域（2kHzから8kHz）で約1/10（20 dB）の改善効果が得られ、さらに10kHz以上の帯域ではテープの高域MOL（最大録音レベル）特性を改善することができます。

ドルビーNRシステムは、録音・再生を通じてノイズを低減しますので、再生または録音時のみドルビーNRを使用してもノイズを減らすことはできません。テープを再生するときは、録音したときのドルビーNRと同じ設定にしてください。

DOLBY B-C NR

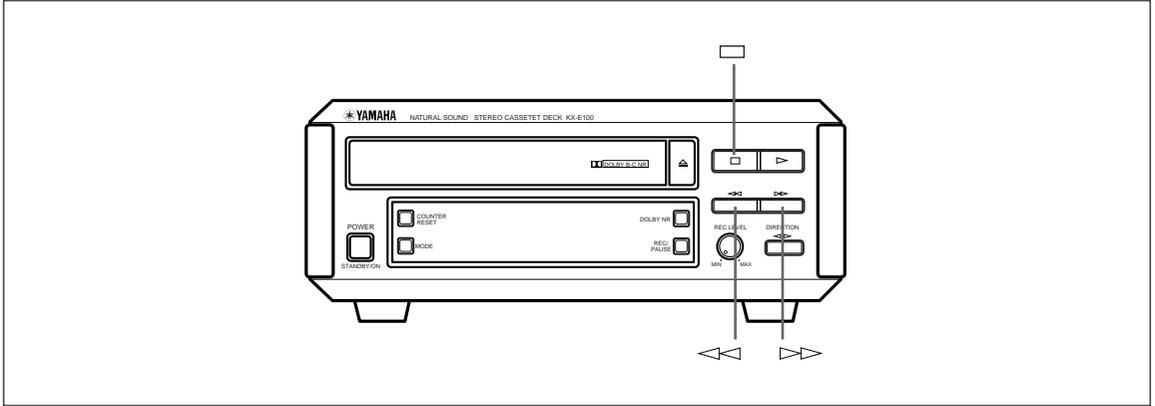
ドルビーノイズリダクションはドルビーラボラトリーライセンスングコーポレーションからの実施権に基づき製造されています。

ドルビー、DOLBY及びダブルD記号はドルビーラボラトリーライセンスングコーポレーションの登録商標です。

テープを聞くには

テープを早く巻き取るには

曲の頭出しをするには (自動頭出し演奏)



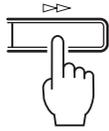
停止中に◀◀または▶▶ボタンを押す

表面の先頭まで巻き取るとき



◀◀インジケーターが点滅します。

裏面の先頭まで巻き取るとき



▶▶インジケーターが点滅します。

巻き取り中にテープを止める、または再生するには止めたいところで□ボタンを押します。または、再生したいところで▷ボタンを押します。

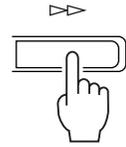
再生中◀◀または▶▶ボタンを押す

表の面を聞いているとき

(▶インジケーターが点灯しているとき)



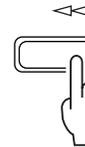
今の曲の頭へ



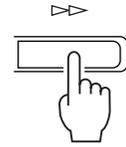
次の曲の頭へ

裏の面を聞いているとき

(◀インジケーターが点灯しているとき)



次の曲の頭へ



今の曲の頭へ

頭出し中はSEARCHインジケーターと、◀◀または▶▶インジケーターが点滅します。

次のようなテープを使うと、自動頭出し演奏が正しく動作しないことがあります。

録音レベルが低すぎたり(音が小さい)、会話など音声がとぎれているとき。

テープの曲間(無音部)が4秒以下のとき。

音が非常に小さい部分が長く続く曲や、演奏や歌声が全く入っていない部分があるとき。

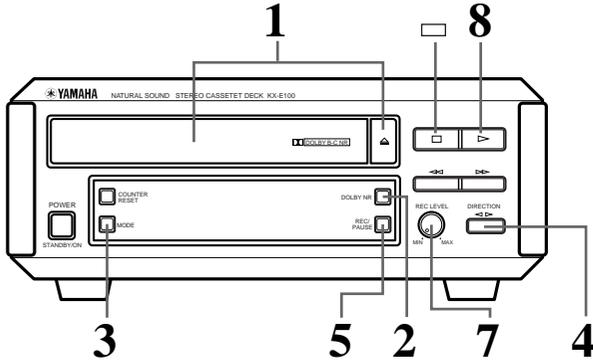
曲間に大きな雑音(ノイズ)が録音されているとき。

曲の始めがフェードインしているとき。

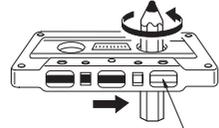
曲の始めの部分や終わりの部分で頭出しすると、1つ目の無録音部分でテープが止まらないことがあります。

録音するには

録音の基本操作



テープの始めの録音できない部分は、あらかじめ巻き取っておいてください。

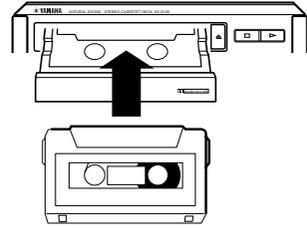


録音できない部分

1 テープを入れる

△ボタンを押し、トレイにテープをのせてから、△ボタンを押します。

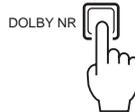
テープがじかに出ている面を奥に入れてください。
デッキのPOWERスイッチを切っている場合でも、△ボタンを押すと自動的に電源が入ります。



2 ドルビーノイズリダクション DOLBY NRボタンでドルビーNRを選ぶ

DOLBY NRボタンを押すたびに、ドルビーB、C、オフの順で切り換わります。

ドルビーNRについては、11ページを参照してください。

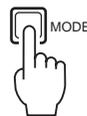


ドルビーB NR オン (<input type="checkbox"/> B点灯)	ドルビーB NR録音するとき
ドルビーC NR オン (<input type="checkbox"/> C点灯)	ドルビーC NR録音するとき
ドルビーNR オフ (インジケーター消灯)	ドルビーNR録音しないとき

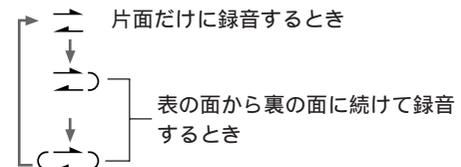
3 モード MODEボタンでテープの走行モードを選ぶ

MODEボタンを押すたびに、テープの走行モードが切り換わります。

()モードを選んで、手順5でREC/PAUSEボタンを押すと()モードに変わります。
()モードで裏の面から録音すると、その面のテープエンドで止まります。



モードインジケーター



次のページへ続く

録音するには

4 ディレクション DIRECTION ◀ ▶ ボタンで録音する面を選ぶ

DIRECTION ◀ ▶ ボタンを押すたびに ▶ と ◀ が切り換わります。



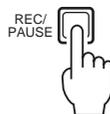
ディレクションインジケーター

▶点灯	表の面を録音するとき
◀点灯	裏の面を録音するとき

5 ロック/ポーズ REC/PAUSE ボタンを押して録音待機状態にする

RECインジケーターが点滅します。

録音待機状態を解除するには□(停止)ボタンを押します。



6 録音したい機器を再生する

ヤマハのCDプレーヤCDX-E100またはMDレコーダMDX-E100から録音する場合
CDまたはMDの再生が始まると自動的にテープの録音も始まります(シンクロ録音)。また、CDでは録音レベルをあらかじめ調節してから録音することもできます。「CDの録音レベルを調節してから録音する(次ページ)をご覧ください。

7 ロック レベル REC LEVELつまみを回して録音レベルを調節する

「録音レベルの調節(次ページ)をご覧ください。



8 ▶ ボタンを押す

RECインジケーターとPLAYインジケーターが点灯し、録音が始まります。



録音を一時的に止めるには

REC/PAUSEボタンを押します。

テープが止まって録音の待機状態になり、RECインジケーターが点滅します。

再び録音を始めるには、▶ ボタンを押します。

コントロールコードで接続したヤマハCDプレーヤCDX-E100またはMDレコーダMDX-E100から録音しているとき

CDまたはMDの再生を止めるとテープデッキは約4秒間の無音部分*を作ったあと録音待機状態になります。再びCDまたはMDの再生を始めるとシンクロ録音が自動的に始まります。

* 曲の頭出し(12ページ)は無音部分を使って行われます。

録音を止めるには

□(停止)ボタンを押します。

テープを取り出すには

□(停止)ボタンを押してから△ボタンを押します。テープを取り出したら、△ボタンをもう一度押してテープトレイを閉めます。

録音中や録音待機中に△ボタンを押してもテープトレイは開きません。

システム録音について

ヤマハのレシーバRX-E100 / CDプレーヤCDX-E100、およびMDレコーダMDX-E100を本機に接続している場合は、CDプレーヤまたはMDレコーダの再生に本機を連動させてテープ録音することができます(シンクロ録音)。

さらに、用途に合わせていろいろなダビング録音をお楽しみいただけます。

詳しくはレシーバRX-E100 / CDプレーヤCDX-E100、およびMDレコーダMDX-E100の取扱説明書をご覧ください。

CDの録音レベルを調節してから録音する

1. 「録音の基本操作」の手順1～5まで操作します。
2. CDプレーヤでCDのピークサーチを行います。RX-E100/CDX-E100の取扱説明書をご覧ください。
3. 本機のREC LEVELつまみで録音レベルを調節します。右の「録音レベルの調節」をご覧ください。
4. CDX-E100本体の□(停止)ボタンを押してCDのピークサーチを解除します。CDの再生を始めるとCDのシンクロ録音が始まります。

ご注意

大切な録音をされる前に、あらかじめ試し録音で間違いなく録音されることを確かめましょう。万一、本機およびカセットテープなどの不具合により、正常に録音されなかったり、再生できなかった場合、その内容の補償についてはご容赦ください。

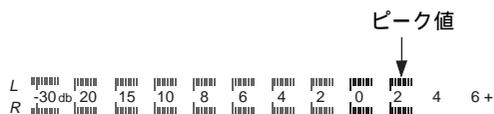
あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。(19ページ)

テープの内容を消去する場合は、録音レベルつまみをMINにしてください。

録音レベルの調節

録音レベルの調節は、雑音やひずみの少ないきれいな音で録音するための重要なポイントです。録音レベルが低すぎるとテープの雑音(ヒスノイズ)が耳につき、逆に高すぎると音がひずみ、特に高音がきれいに録音できません。

一番大きな音が入ったときのピークレベルメーターの振れが、+4dBを越えないようにREC LEVELつまみを回して調節します。



本機のピークレベルメーターはピークホールド機能により、約2秒間ピーク値を表示し続けます。

録音を始めた位置に戻るには

ある部分の録音をやり直したいときや、録音状態をチェックしたいときなど、録音を始めた位置まで戻ることができます。

録音中または録音待機状態のとき：

▶インジケーターが点灯しているときは◀◀ボタンを押します。

◀インジケーターが点灯しているときは▶▶ボタンを押します。

録音を始めたところまでテープが巻き戻され停止します。録音モードは解除されてしまうので、再び録音を始めるには14ページの手順5から操作してください。

録音中に▶ボタンまたはCOUNTER RESETボタンを押すとその位置が記憶され、◀◀ボタン(▶インジケーターが点灯しているとき)または▶▶ボタン(◀インジケーターが点灯しているとき)を押すと▶ボタンまたはCOUNTER RESETボタンを押したところまで戻ります。

▶ボタンまたはCOUNTER RESETボタンを何回か押した場合は、最後に押した位置が記憶されます。

テープカウンター

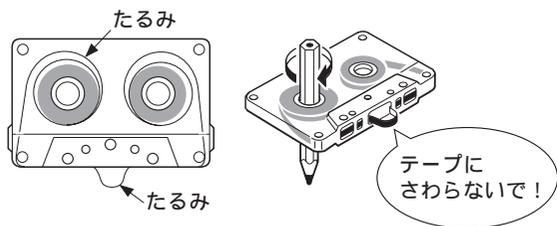
テープの走行距離を0000から9999までで表示します。テープの位置を知る目安としてお使いください。カウンターを0000に戻すにはCOUNTER RESETボタンを押します。

テープについて

取り扱いについて

C-120 テープや一部のリール付デザインのテープは薄く伸びやすいためできるだけ使用しないでください。
テープが機械に巻き込まれる場合がありますので注意してください。

テープをお使いになる前に、たるみがないか、シワが入ってないか確かめてください。テープのたるみは鉛筆やボールペンなどで巻き取ってください。
たるみやシワのあるテープを使うと、テープが切れたり、機械に巻きついたりすることがあります。

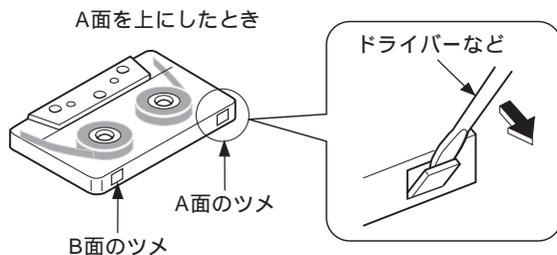


避けてほしい保管場所

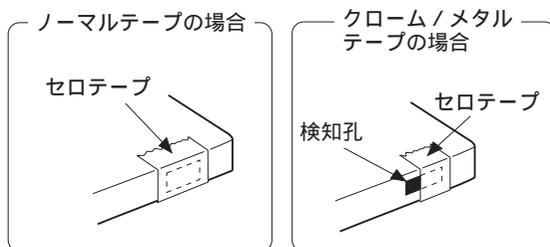
直射日光が長時間あたる所(特に密閉した自動車内など)
暖房器具の近く
ほこりや湿気の多い所
磁気のある所(スピーカーの近くやテレビの上など)

大切な録音を誤って消さないために

テープの消去防止用のツメを折って取りのぞいておくと、録音ができなくなり大切な録音をあやまって消すことがありません。



もう一度録音したり、録音を消したいときは、ツメを折った部分を、セロテープなどでふさぎます。



オートテープセレクト機構はテープの検知孔によって判別しますので、クロームやメタルテープの穴をふさぐ場合は、ツメがあった部分だけをふさいでください。

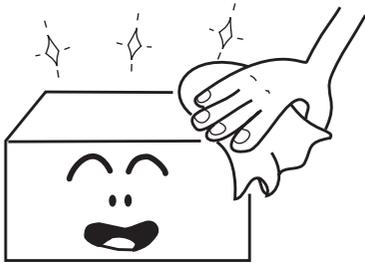
お手入れするには

お手入れの際は、電源コードをコンセントからはずしてください。

本体/リモコン

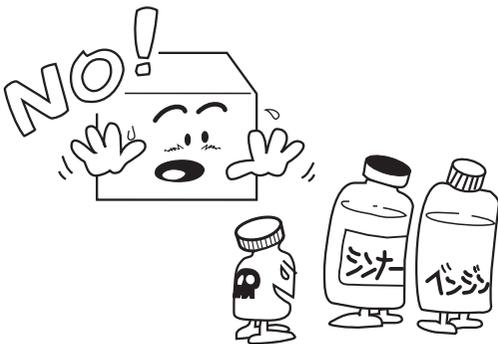
ふつうの汚れは、やわらかい布で軽くふきとってください。

汚れがひどいときは水でうすめた洗剤を布にふくませ、よくしぼってふき取ってください。そのあと、乾いた布で仕上げてください。



ご注意

ベンジン、シンナーなどでふいたりすると変質したり、塗料がはげることがありますので使わないでください。



ヘッド

<ヘッド部の清掃>

良い音で録音や再生を楽しむために、およそ15時間使用すごとに市販のクリーニングテープを使って清掃してください。

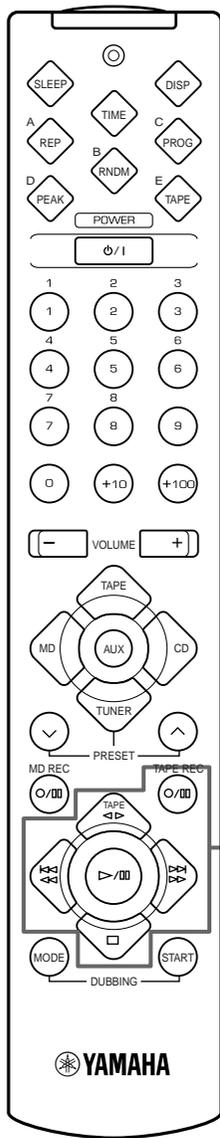
<ヘッド部の消磁>

長い間使っていたり、ヘッド部に磁気を帯びたものが触れたりするとヘッドが磁化され、そのまま録音や再生をすると、雑音が入ります。20~30時間使用をめやすに、市販のテープ型消磁器(ヘッドイレイサー)を使って消磁してください。

油をささないでください。故障の原因になります。

リモコンについて

本機は、ヤマハレシーバRX-E100/CDプレーヤCDX-E100(CRX-E100)に付属のリモコンで操作することができます。リモコンは、レシーバに向けて操作してください。



本機の操作には、この部分のボタンを使用します。

TAPE ◀▶ ボタン：テープの表 / 裏面を選びます。

▶/□ ボタン：再生または録音を始めます。(一時停止機能はありません。)

□ ボタン：再生または録音を停止します。

◀◀ ◀◀ / ▶▶ ▶▶ ボタン：早送り、サーチをします。

TAPE REC ◯/□ ボタン：録音一時停止状態になります。

音楽著作権について

放送やレコード、ディスク、テープなどの音楽作品は、著作権法によって保護されています。したがって、次のような場合には権利者の許諾が必要です。

1. 放送やレコード、ディスク、テープなどから録音したテープを売る、配る、譲る、貸すときなど。
2. 営利(店のBGMなど)のために、レコード、ディスク、テープなどを演奏するとき。

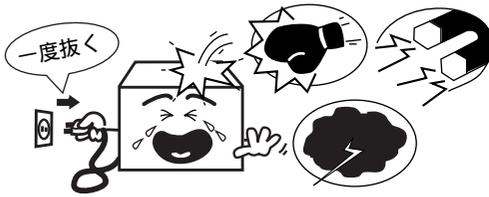
日本著作権協会

本部	(03) 3502-6551	北陸支部	(0762) 21-3602
北海道支部	(011) 221-5088	京都支部	(075) 251-0134
盛岡支部	(0196) 52-3201	大阪支部	(06) 244-0351
仙台支部	(022) 264-2266	神戸支部	(078) 322-0561
大宮支部	(048) 643-5461	中国支部	(082) 249-6362
東京支部	(03) 3562-4455	四国支部	(0878) 21-9191
西東京支部	(03) 3232-8301	九州支部	(092) 441-2285
横浜支部	(045) 662-6551	鹿児島支部	(0992) 24-6211
静岡支部	(054) 254-2621	那覇出張所	(098) 863-1228
中部支部	(052) 586-1155		

詳しい内容や申請、その他の手続きについては「音楽著作権協会」の本部または最寄りの支部へお問い合わせください。

故障かな？と思ったら

次のような場合は故障でないことがありますので、修理やアフターサービスをお申し付けになる前にあらかじめお調べください。



この製品を使用中に、強い外来ノイズ(衝撃、過大な静電気、または落雷による電源電圧の異常など)を受けた場合や誤った操作をした場合などに、操作を受けつけなくなるなどの異常が発生することがあります。

このようなときは、いったん電源差し込みプラグを抜き、約30秒後に再びつないで操作をやり直してみてください。

こんなとき

ここをおたしかめください

参照ページ

録音 / 再生時にテープが回らない	電源コードがはずれていませんか？	7
録音できない。	カセットテープの消去防止用のツメが取り除かれていませんか？ カセットテープが入っていますか？	16
再生時の音質が悪い。	録音時と同じドルビーNRを選択していますか？	9
音がかすれたり、とぎれたりする。高音が出ない。	テープにシワがあったり、伸びたりしていませんか？ ヘッド部が汚れていませんか？ ヘッド部が帯磁していませんか？	16 17
音が不安定。	テープがたるんでいませんか？ ヘッド部が汚れていませんか？	16 17
雑音が入る。	他の電器製品(テレビ、蛍光灯、電気毛布)の近くに設置していませんか？ レシーバ、アンプの上に本機を設置した場合、わずかな雑音が入ることがあります。	— —
リモコンが正しく動作しない。	レシーバの受信部に正しく向けていますか？	18

仕様

型式	オートリバース / 水平ローディング方式
ヘッド	4トラック2チャンネル 再生 / 録音ステレオカセットデッキ 録再 ハードパーマロイ × 1 消去 ダブルギャップフェライト × 1
録音方式	交流バイアス方式 (105kHz)
消去方式	交流消去方式 (105kHz)
モーター	メイン : DCサーボモーター トレイローディング : DCモーター
ワウフラッター	± 0.19% W.PEAK (EIAJ) 0.09% W.RMS
早巻時間	約100秒 (C-60テープ)
総合周波数特性	Type I (ノーマル) : 30 ~ 15000Hz ± 3dB Type II (ハイ) : 30 ~ 16000Hz ± 3dB Type IV (メタル) : 30 ~ 18000Hz ± 3dB
S/N比	NR OFF : 54dB Dolby B NR : 62dB Dolby C NR : 70dB
歪率	1.0%
セパレーション	40dB以上 (1kHz)
クロストーク	55dB以上 (125Hz)
入力端子	ライン : 100mV/30k
出力端子	ライン : 570mV/3.0k
電源電圧	AC 100V 50/60Hz
消費電力	9W 3W (スタンバイ)
寸法 (幅) × (高さ) × (奥行)	217 × 88 × 275mm
重量	3.0kg

付属品

オーディオ接続コード × 2
コントロールコード × 1
取扱説明書 × 1
保証書 × 1

仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

本機は、電気用品取締法に定める技術基準に適合しています。

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を未永く、安心してご愛用いただけるためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

保証期間

お買上げ日より1年間です。

保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間が過ぎているとき

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

修理料金の仕組み

- 技術料 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
- 部品代 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
- 出張料 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年(テープデッキは6年)です。この期間は通商産業省の指導によるものです。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

製品の状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。

品番、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。本機を未永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをお薦めします。摩耗部品の交換は必ずお買上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

摩耗部品の一例

ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

ヤマハAV製品に対するお問合せ窓口
AVお客様ご相談センター
TEL (03) 5488 - 5500

ヤマハ電気音響製品サービス拠点

(ヤマハAV製品の故障に関するご相談窓口および修理受付、修理品お持ち込み窓口)

- 北海道 〒064-8543 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内
TEL (011) 512 - 6108
- 仙台 〒984-0015 仙台市若林区卸町5-7
仙台卸商共同配送センター3F
TEL (022) 236 - 0249
- 首都圏 〒211-0025 川崎市中原区木月1184
TEL (044) 434 - 3100
- 浜松 〒435-0048 浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内
TEL (053) 465 - 6711
- 名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2-1-2
ヤマハ(株)名古屋流通センター3F
TEL (052) 652 - 2230
- 大阪 〒565-0803 吹田市新芦屋下1-16
ヤマハ(株)千里丘センター内
TEL (06) 6877 - 5262
- 広島 〒731-0113 広島市安佐南区西原6-14-14
TEL (082) 874 - 3787
- 四国 〒760-0029 高松市丸亀町8-7 ヤマハミュージック神戸高松店內
TEL (087) 822 - 3045
- 九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL (092) 472 - 2134

愛情点検



永年ご使用の本機の点検を!

こんな症状はありませんか?

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズが変形がある。
- 製品に触れるとビリビリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社

〒430-8650 浜松市中沢町10-1

AV機器事業部

営業部 TEL (053) 460 - 3451

品質保証室 TEL (053) 460 - 3405

住所および電話番号は変更になることがあります。

